

平成24年度第2回成田市環境審議会会議録

1 開催日時

平成25年2月15日（金）午前10時30分～午前11時35分

2 開催場所

成田市花崎町760番地 成田市役所3階第二応接室

3 出席者

（委員）

本橋敬之助会長、森山茂副会長、藤井智子委員、片岡孝治委員、飯島栄委員、印宮昭夫委員、長尾ミチ子委員、鏈分正貴委員、設楽憲一委員、山本正人委員、綿貫沢委員、北原隆司委員、坂本勝浩委員

（成田市）

環境部 桑原部長

（事務局）

環境計画課 石井課長、篠塚副主幹、土屋主査、加藤副主査、廣澤主任主事

環境対策課 川島課長

クリーン推進課 山田課長

環境衛生課 棚橋課長

（オブザーバー）

株式会社知識経営研究所 湯田コンサルタント

（第3次成田市環境保全率先実行計画策定受託業者）

4 議題

（1）第3次成田市環境保全率先実行計画について（報告）

（2）その他

5 議事（要旨）

（1）第3次成田市環境保全率先実行計画について（報告）

事務局から、「成田市役所エコオフィスアクション（第3次成田市環境保全率先実行計画）（素案）」（以下「素案」）及び「第3次成田市環境保全率先実行計画（素案）パブリックコメント実施結果概要」（以下「パブコメ」）に沿って説明を行った。

議題（1）において出された意見等は次のとおり。

・素案14ページの棒グラフで23年度の温室効果ガス総排出量が28,998トンCO₂であるのに対し、4ページ、5ページの23年度は34,828トンCO₂となっていることについて説明願いたい。

→第2次計画の総括をする段階では、電気の使用などの温室効果ガスを算定する際に使用する排出係数について、第2次計画の期間内で統一の数字を使用し（4ページ等）、今回、第3次計画の基準値を設定するにあたっては、最新の排出係数を使用している（14ページ）ため、同じ23年度の温室効果ガス排出量でも異なる数字となっている。

・第3次計画では温室効果ガス総排出量の削減目標を6パーセントとしているが、第2次計画との関連も踏まえて説明願いたい。

→第2次計画では、18年度を基準にして24年度に温室効果ガス総排出量6パーセント削減を目標にしており、23年度時点で市役所の事務事業による分が3パーセントの削減実績、また、ごみ処理及びし尿処理分は23年度時点で26.3パーセントの削減実績となっている。合計で15.2パーセントの削減と、この時点では6パーセントの削減は達成しているものの、それぞれの部門ごとに6パーセントを達成したいという目標であり、より細かく言えばLPガスなどの活動区分ごとでも達成できていない項目もある。このようなことから、市としてはまだ取り組みを必要とする部分があったと考えている。

第3次計画にあたっては、市の事務事業の拡大傾向や、これから5年間の施設の新設・廃止動向の予定などを踏まえながら、そういった中でもやはり様々な省エネルギー・省資源の取り組みをしていき、排出する温室効果ガスは年1パーセント以上を達成したいという考えがあり、6パーセントという目標を立てさせていただいた。

・参考に配布されている第2次計画のページ数が61ページあるのに対し、素案は23ページだが簡素化しているのか。

→第2次計画は本編と資料編をあわせて61ページとなっており、素案は策定途中のため本編のみで23ページという状況である。完成時には資料編を加えたものになり、同程度のページ数になろうかと思われる。

・4ページで22年度の廃プラスチック類による温室効果ガスが他の年に比べ突出しているが理由は何か。

→温室効果ガスの排出にはごみからの排出が相当多い部分を占めており、ごみの中ではやはり廃プラスチック類による影響が非常に大きい。ごみの成分分析は、年に4回サンプリングして分析をしているところで、この18年度から23年度の間、ごみの収集の方法や分別を変更していないため、本来同じよう

な数字が出るものだろうと考えていたが、22年度は結果的に廃プラスチック類の混入率が高かった。何故そうなったのか、そこまでは追求できなかった。

・22年度にごみの処理方法や分別方法を変えたわけではないのか。

→変えていない。新しい成田富里いずみ清掃工場にあわせて分別区分を変更し、汚れたビニールなどを焼却処理に変更しているの、今後はその影響が出てくるのが考えられるが、新清掃工場では発電をするのでその分をカバーしていきたい。

・4ページの23年度のごみ処理とし尿処理をあわせた数字は12,302トンCO₂で、5ページの23年度のごみ処理及びし尿処理分は15,937トンCO₂となっており、数字が違っているのはどういうことか。

→4ページでは、ごみ処理とし尿処理に伴う燃料や電気の使用などの温室効果ガスを含んでいない（それぞれ燃料の使用、電気の使用などの欄の数字に含めている）のに対し、5ページではごみ処理及びし尿処理分に伴う燃料や電気の使用などの温室効果ガスを含めた数字としている。

・3ページを見ると、23年度まで削減に努めてきた経過が伺えるが、目標年度である24年度では、そこまで削減しなくて良い（23年度よりも増えて良い）ようなグラフになっているが、目標年度に向けて対策をどのようにしているのか。

→24年度として載せたのは、あくまで第2次計画策定当初の目標であり、実際には、今年度（24年度）が終わった際に、23年度よりも更に温室効果ガス排出を減らすことを目指し取り組んでいるところである。しかしながら、23年度は震災後の相当な節電を行った年であり更なる削減が図れるかは今年度が終わってみなければわからないところである。

・もうそろそろ年度末だが、途中経過などを把握して、対策の是正などを行っているのか。

→集計が多岐に亘り途中経過は把握できていない。

・一般企業では売上目標の達成状況を月ごとなどで把握し途中経過を見て是正するものである。

・何かを削減するような取り組みが目につくが、例えば太陽光発電の導入や生ごみの堆肥化などの考えはあるのか。

→太陽光発電は成田市環境基本計画でも市としてできるところは推進する方針を出しており、市民向けにも、住宅用太陽光発電システム設置費補助金の制度なども導入させていただいているところである。今後、市の新しい施設については、可能な限り太陽光パネルを載せていく方針であり、既存の施設についてもできるところは検討していきたい。

その他いわゆる新エネルギーの検討なども求められるところだが、新しいものはその都度検討しながら取り入れられるものは取り入れていく考えはある。なお、生ごみ堆肥化には以前取り組んだが、その時はうまくいかなかった経緯がある。

・ISO14001の認証を返上した理由が書いてないので教えてもらいたい。
→ISO14001は環境マネジメントシステムの国際規格であり、市は認証を取得して6年間、規格に沿った活動に取り組み、内部環境監査や外部審査などを経てきた。この中で、職員の環境意識や環境配慮行動が定着し、そのノウハウも蓄積され、一定の成果が得られたと考えられることから、3年間で1回の更新という周期の2回目の有効期間満了である24年3月23日で一区切りとさせていただいた。

これから第3次計画に取り組んでいく中でも、ISO14001認証で培ったものは、簡略化をしながらも引き続き成田市EMSという形で環境配慮を継続させていく。

・4ページの棒グラフでは、カーエアコン、ガス・ガソリン機関など、数字には出ているもののグラフ内の表示が全くあるいはほとんど無い要素があり、その他としてまとめるなどして見やすくしてはどうか。
→検討させていただく。

・8ページの表の電気の使用に関する排出割合は48.5パーセントと表示されているが、9ページの円グラフでは45.1パーセントになっており、この数字の違いは何か。
→8ページの表は間違いで9ページの円グラフの方が正しいので直させていただきたい。

・第4章で具体的な取り組みが細かく書かれており、エレベーターの適正使用などは健康面の増進にも繋がり良いことだと思うが、他の取り組みなどで、パブコメでも意見が出されているように、安全性、必要性、市民サービスの向上などとの調和はどう考えているか。また、取り組む内容が細かいことから、職員が委縮し、職場の雰囲気が悪くなるなどの懸念は大丈夫か。

→例えば23年度の震災後の節電では、市民にご迷惑をおかけした部分もあったが、こういったことを踏まえ、市民サービスが低下しないような範囲での省エネ・省資源に取り組んでいきたい。また、取り組みにあたっては、職員を締め付け過ぎず、自然に当然として市の職員が環境配慮行動をできるようにということを目指していきたい。

- ・LEDなどの導入には予算がかかるので、そういう予算の裏付けをしっかりとやっていただきたい。

- ・23ページに「職員等への研修等」と出ているが、やらされているという意識ではなく、自らやっていくという意識を持たせるためには、研修等が絶対必要だと思う。私たちも協力できることは協力したいと思うし、あるいはそういう研修等にも参加したい。

- ・会長のあいさつにもあった話で、今後計画が策定され、市役所だけでなく家庭や事業所、学校教育の場での取り組みなどへ、市の取り組みを波及させていくことが重要と思うが、どのように活かしていくのか。

→この計画自体は市役所がどう環境配慮するかという計画であるが、市役所での取り組みを市全体に広げていくようなことも当然必要なことと思っている。この中で、省エネや車のエコドライブなど、市民の方々が取り組めるような事例などは、今も広報などに定期的に記事を掲載してお知らせしているところであり、ホームページでも先進事例の紹介などを含めてお知らせしていきたいと思っている。また、新年度には、企業向けに地球環境保全協定制度を新設させていただき、事業者向けにも新たな支援をしていければと思っている。

- ・データの表示の仕方を考えてもらいたい。「こういうことを示したもの」などの補足や解説が要らないよう、そのデータによって何を訴えたいのか、そのものずばりを示すよう工夫してもらいたい。

- ・コピー用紙の使用が25パーセントも増えているが、コピー用紙が25パーセント増えるとコピー機に関する電気も25パーセント増えることになるので、その辺の対策を考えるべきである。

- ・成田市役所がどうかは知らないが、他の職場の事例で、節電と言って、昼休みの照明を消灯しているものの、パソコンは煌々とつき、仕事に関係の無いインターネットを見て、使わなくて良い電気が使われている。周りをしっかり見て、自分たちの身の回りに本当に節電しなくてはならないものが無いか再度評価

して、それを施策として展開してもらいたい。

(・意見や質問、→意見や質問に対する回答)

(2) その他

なし。

6 傍聴

傍聴者 1 名。

7 次回開催日時 (予定)

次回は平成 25 年度となるが、日程・議題等は現時点では未定のため、改めての連絡とさせていただきます。